

問題

19 世紀後半から 20 世紀初めのヨーロッパ諸国の議会政治は、各国においてさまざまな様相をみせた。そこには共通点もあれば、相違点もあった。

このことを、19 世紀の二大政党制下のイギリス、1880 年代以降の第三共和制下のフランス、帝制ドイツ、自由主義イタリア、復古王政下のスペインを具体的な事例として明らかにしなさい。

その際、国ごとに順番に書くのではなく、各国の議会政治の特徴を明らかにするためにはどのような点に注目したらよいのかを考え、そのような点をできるだけ多く明示しながら、それらの各点に関して各国を比較する形の記述を行うこと。

(※) 答案の制限字数、提出期間、提出方法、注意事項などは、「授業案内」のラベルの中の「今後の予定と学期末試験について」という文書の中に記されていますので、それにしたがってください。

講評

この問題で(というより試験一般で)重要なのは、設問が問うていることを正確に把握し、その問うているものに答えることである(関係がありそうなことを書けばよいというものではない)。当たり前のようで、これができていない答案が少なくなかった。

答案作成時の二つの条件を設問は明記している。

第一に、「国ごとに順番に書いてはいけない」という点である。見落としたのか、軽視したのか、故意に無視したのか、理由は不明だが、「国ごとに書いた」答案がかなりあった。中には、答案の冒頭で、国ごとに書くと宣言しているものもあった。

第二に、各国の議会政治の特徴を明らかにするようなポイント、いわば各国の議会政治の類似点と相違点(これらを明らかにすることから「比較」という作業は始まる)がわかるようなポイントをできる限り多く明示するという点である。よい答案は、たとえば答案の初めに注目するポイントを 5 つ挙げ、なぜそれを選んだのかについての理由も書き添え、それに続いて、ポイントごとに 5 つの国の比較をする(すべてのポイント内で 5 か国をすべてとり上げる必要はない。扱いに違いはあってよい)、というものである。「比較のポイントを明示していない」答案もかなりあった。

これらの条件を満たしていない答案に関しては低い評価を行った。